

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】令和 2 年 1 月 30 日 (2020.1.30)

【公開番号】特開 2019-168715 (P2019-168715A)  
 【公開日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)  
 【年通号数】公開・登録公報 2019-040  
 【出願番号】特願 2019-109406 (P2019-109406)  
 【国際特許分類】

G 0 2 C 7/04 (2006.01)

【F I】

G 0 2 C 7/04

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 27 日 (2019.11.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

成人対象の眼に対してコンタクトレンズを適合させるためのシステムであって、前記システムは、

前記成人対象の眼の最平坦角膜経線における曲率半径を決定するための手段と、

前記成人対象の眼のためのコンタクトレンズであって、前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率から 2 . 0 ジオプタ ~ 6 . 0 ジオプタだけ変動する曲率を伴う視覚ゾーンを有し、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、直径が 0 . 5 mm よりも大きい気泡が前記コンタクトレンズと前記眼との間に形成されることが防止され、前記コンタクトレンズは、前記コンタクトレンズの中心から前記コンタクトレンズの縁に向かって曲率が次第に平坦になる、コンタクトレンズと

を含む、システム。

【請求項 2】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率よりも 2 . 0 ジオプタ ~ 6 . 0 ジオプタだけ大きい曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 3】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率よりも 2 . 0 ジオプタ ~ 6 . 0 ジオプタだけ小さい曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 4】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率から 3 . 5 ジオプタ ~ 5 . 5 ジオプタだけ変動する曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 5】

前記システムは、老視、コンピュータ視覚症候群 (C V S)、不十分な遠近調節から成る群から選択される眼科的状态を治療するためのものである、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 6】

前記システムは、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、前記コンタクト

レンズと前記眼との間に適用可能な治療薬をさらに含む、請求項 5 に記載のシステム。

【請求項 7】

前記治療薬は、ヒアルロニダーゼ、コンドロイチナーゼ A B C、コンドロイチナーゼ A C、エンド B - ガラクトシダーゼ、ストロメライシン、細菌性コラゲナーゼ、間質性コラゲナーゼ、ゼラチナーゼから成る群から選択される 1 つ以上の軟化剤を含む、請求項 6 に記載のシステム。

【請求項 8】

前記 1 つ以上の軟化剤は、ヒアルロニダーゼおよび細菌性コラゲナーゼを含む、請求項 7 に記載のシステム。

【請求項 9】

前記 1 つ以上の軟化剤は、1 ~ 10 USP 単位 / mL のヒアルロニダーゼと 5 ~ 15 USP 単位 / mL の細菌性コラゲナーゼとを含む、請求項 8 に記載のシステム。

【請求項 10】

コンタクトレンズであって、前記コンタクトレンズは、  
7.0 mm ~ 9.0 mm の視覚ゾーン直径と 7.0 mm ~ 10.0 mm の曲率半径とを有する視覚ゾーンと、

前記視覚ゾーンを包囲する内周領域であって、前記内周領域は、前記視覚ゾーンの曲率半径よりも 0.5 mm ~ 1.5 mm 大きい曲率半径を有し、前記コンタクトレンズは、成人対象の眼の角膜の上に配置されるように構成されており、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、直径が 0.5 mm よりも大きい気泡が前記コンタクトレンズと前記眼との間に形成されることが防止され、前記コンタクトレンズは、前記コンタクトレンズの中心から前記コンタクトレンズの縁に向かって曲率が次第に平坦になる、内周領域とを含む、コンタクトレンズ。

【請求項 11】

眼科的状态を治療するためのシステムであって、前記システムは、

請求項 10 に記載のコンタクトレンズと、

前記眼科的状态に罹患している前記成人対象の眼に適用可能な 1 つ以上の角膜軟化剤とを含む、システム。

【請求項 12】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率よりも 2.0 ジオプタ ~ 6.0 ジオプタだけ大きい曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 13】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率よりも 2.0 ジオプタ ~ 6.0 ジオプタだけ小さい曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 14】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率から 3.5 ジオプタ ~ 5.5 ジオプタだけ変動する曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 15】

前記システムは、老視、コンピュータ視覚症候群 (CVS)、不十分な遠近調節から成る群から選択される眼科的状态を治療するためのものである、請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 16】

前記システムは、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、前記コンタクトレンズと前記眼との間に適用可能な治療薬をさらに含む、請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 17】

前記治療薬は、ヒアルロニダーゼ、コンドロイチナーゼ A B C、コンドロイチナーゼ A C、エンド B - ガラクトシダーゼ、ストロメライシン、細菌性コラゲナーゼ、間質性コラ

ゲナーゼ、ゼラチナーゼから成る群から選択される１つ以上の軟化剤を含む、請求項１６に記載のシステム。

【請求項１８】

前記１つ以上の軟化剤は、ヒアルロニダーゼおよび細菌性コラゲナーゼを含む、請求項１７に記載のシステム。

【請求項１９】

前記１つ以上の軟化剤は、１～１０ＵＳＰ単位／ｍＬのヒアルロニダーゼと５～１５ＵＳＰ単位／ｍＬの細菌性コラゲナーゼとを含む、請求項１８に記載のシステム。

【請求項２０】

成人対象の眼に対してコンタクトレンズを適合させるためのシステムであって、前記システムは、

前記成人対象の眼の最平坦角膜経線における曲率半径を決定するための手段と、

前記成人対象の眼のためのコンタクトレンズであって、前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率から２．０ジオプタ～６．０ジオプタだけ変動する曲率を伴う視覚ゾーンを有し、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、前記眼の角膜と前記コンタクトレンズとの間の流体体積は、０．０５立方ｍｍ～０．３立方ｍｍに維持され、前記コンタクトレンズは、前記コンタクトレンズの中心から前記コンタクトレンズの縁に向かって曲率が次第に平坦になる、コンタクトレンズと

を含む、システム。

【請求項２１】

前記眼の角膜と前記コンタクトレンズとの間の流体体積は、涙液体積である、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２２】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率よりも２．０ジオプタ～６．０ジオプタだけ大きい曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２３】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率よりも２．０ジオプタ～６．０ジオプタだけ小さい曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２４】

前記コンタクトレンズは、前記眼の最平坦角膜経線における曲率から３．５ジオプタ～５．５ジオプタだけ変動する曲率を伴う視覚ゾーンを有する、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２５】

前記コンタクトレンズは、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、直径が０．５ｍｍよりも大きい気泡が形成されることが防止されるような寸法である、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２６】

前記コンタクトレンズは、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、前記コンタクトレンズが１ｍｍよりも多く移動しないような寸法である、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２７】

前記システムは、老視、コンピュータ視覚症候群（ＣＶＳ）、不十分な遠近調節から成る群から選択される眼科的状态を治療するためのものである、請求項２０に記載のシステム。

【請求項２８】

前記システムは、前記コンタクトレンズが前記眼につけられたときに、前記コンタクトレンズと前記眼との間に適用可能な治療薬をさらに含む、請求項２７に記載のシステム。

【請求項２９】

前記治療薬は、ヒアルロニダーゼ、コンドロイチナーゼ A B C、コンドロイチナーゼ A C、エンド B - ガラクトシダーゼ、ストロメライシン、細菌性コラゲナーゼ、間質性コラゲナーゼ、ゼラチナーゼから成る群から選択される 1 つ以上の軟化剤を含む、請求項 2 8 に記載のシステム。

**【請求項 3 0】**

前記 1 つ以上の軟化剤は、ヒアルロニダーゼおよび細菌性コラゲナーゼを含む、請求項 2 9 に記載のシステム。

**【請求項 3 1】**

前記 1 つ以上の軟化剤は、1 ~ 1 0 U S P 単位 / m L のヒアルロニダーゼと 5 ~ 1 5 U S P 単位 / m L の細菌性コラゲナーゼとを含む、請求項 3 0 に記載のシステム。